

地域の光を観る ～田辺市近露の山から～

和歌山大学観光学研究科 修士課程 ○西川昌克

1. 活動方針・目的

地域における観光の主体は時代とともに変化している。観光事業者が主体として活躍していた観光形態も発展を遂げ、今では地域住民が主体となった形態が脚光を浴びている。

「観光」を地域活性化に利用する取り組みは世界中で実施されており、これからも観光現象の多様化が見込まれる。いわゆる“住民の顔が見えない観光”ではなく、“住民の顔が見える観光”に魅力を感じる観光客が増加しているのだ。

人と人との貨幣や商品によって繋げられるのではなく、人によって結び付けられるという一見時代錯誤な考えに、人間本来の生き方を垣間見ることができないのだろうか。

本活動では、地域の資源を他地域へ発信する媒介としての“人”の可能性を考えたい。

2. 活動内容

『ある人が見れば「ゴミ」だが、別の人からすれば「宝物」に見える。』これは、日常生活においてあまり珍しいことではない。この活動も、そういった“ありがち”なところから始まっている。

山には、商品化され市場で売買される木々だけが植わっているわけではなく、生育の過程で他の樹木の育成を妨げる支障木や古木も存在する。「ゴミ」と見られていた山の支障木や古木を、いけばな作品に生まれ変わらせたい。そして、いけばな作品で人々に何かを伝えたい。こういった想いを形にすべく、近露の人々からいけばなの花材提供を受け、地域の魅力を発信している。

3. 他の活動団体の参考となる事例

「地域の魅力を発信する」と言葉にすると簡単であるが、その到達点を明確に意識することは非常に難しい。一つ一つの取り組みで、着実な成果を残すことが重要であるが、その成果が自己満足で終わってしまうこともある。

自己満足で終わらないための大切なことのひとつが、第三者に見てもらうことであると私は考えており、メディアとの良い関係の構築はその為の有効な手段の一つである。

4. 今後の課題等

どれだけ先進的な事例であろうと、1年もすれば社会の変化に埋没してしまうことが多い。

それは、地域が絶えず成長している証であり、人々が成長している証でもある。一般的に言って、魅力のある観光地が増えれば増えるほど、一つの観光地に訪れる観光客数は増加しづらくなる。そのような状況の中でも観光交流を継続させるためには、地域・観光客双方に対してどのようなインセンティブを与えることが大切なのだろうか？

2012.02.23

第7回 関西元気な地域づくり発表会
於:大阪合同庁舎1号館第1別館

地域の光を観る

～ 田辺市近露の山から～

和歌山大学 大学院
観光学研究科 修士課程
西川 昌克



問題認識

～ 何故“**観光**”が注目されているのか？～

「交流を求める活動が増加している」

一方で…

「交流できる場所が減少している」

一見、矛盾しているように思えるが



疎外される人間

- ◆ 18世紀：産業革命による急速な生産力の発展
生産手段を持たない人を生み出す。
- ◆ 日本では第二次大戦後：「金の卵」が都市へ
劣悪な労働環境、賃労働者の疎外、農村の過疎
- ◆ 1992年：「持続可能な開発」(リオ宣言)
世界的に、矛盾を解決する動きが！
- ◆ 今：「都市」と「農村」の共存・共同・協働



様々な取り組みがある中で...

- ◆ 「いけばな」に着目した取り組み
- ◆ 自然保護・環境保全・日本人の美意識
- ◆ 「協働」を志向した活動
できる人が、できることをして、
合目的に行動する！



事例 『近露まるかじり体験』



古民家を活かした
生け花作品

支障木や古木を利用



事例 『メディアとの協働』



地域の紹介をメディア
にってもらう。

地域から花材や花器
の提供を受ける。



事例 『アパレル企業との協働』

3m×4mのショーウィンドーに、学生が花を生ける。生けている過程も公開し、メッセージ性をもたせた。



取り組みのまとめ

事例 『近露まるかじり体験』

「田舎には何も無いやろ・・・」という、地元民の声
おもてなし、林業従事者との協働、空き家対策、ふるさと教育の一環。

事例 『メディアとの協働』

花材や花器などに、和歌山県のものを使用。地域の人から提供して頂く。
提供元の地域や団体を番組内で紹介してもらう。

事例 『アパレル企業との協働』

台風被災地域の流木や支障木を利用。
古木を籠に見立て、復興の願いを込めた。
地域・企業・学生による協働



“人”が移動する

- ◆ 「経済の成長 = お金を稼ぐこと」だった...
- ◆ 世界的に経済が停滞している今、“貨幣”や“商品”が人を媒介するのではなく、“人”が媒介することが求められているのではないか？
- ◆ これからの社会変化を捉える為には、地域と地域を移動する“人”を育てることが重要となる。

経済の成長 = 人が移動すること = 人を移動させること



ご清聴 ありがとうございました！

和歌山大学 大学院
観光学研究科 修士課程
西川 昌克

